

# 東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン登録に向けた取組について

## 1. ホストタウン登録に向けた取組について

令和2年1月24日に道庁で開催された「ホストタウン拡大に向けた説明会」を受け、グアテマラの競歩選手3名のホストタウン登録を検討。

内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局を通じて、グアテマラオリンピック委員会と事前調整を進めた結果、ホストタウン候補地として内定。

ホストタウンの実施にあたり、国の新たな支援制度である「オリパラ基本方針推進緊急調査費支援」を活用することとし、2月13日付で「オリパラ基本方針推進緊急調査・企画提案書」を提出。

4月3日にグアテマラオリンピック委員会関係者が来恵し、ホストタウンに関する合意調印式を行う予定。

## 2. ホストタウン登録に係る新たな支援制度の概要

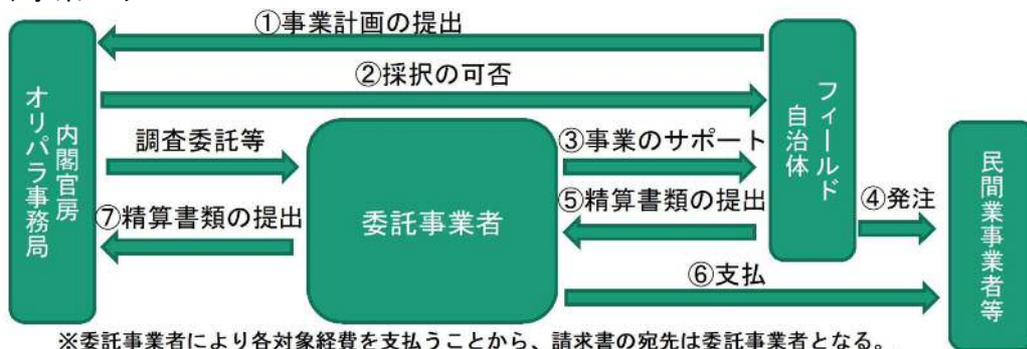
(令和元年度補正予算事業＝オリパラ基本方針推進緊急調査費支援)

2020年を越えた末永い交流の礎となる質の高い取組を加速するために、東京大会後に引き続きホストタウンが取組を継続させるためのモデルとなるような取組に係る調査を実施。

### (1) 対象内容

- ① 共生社会ホストタウンを目指す自治体  
(令和2年1月1日時点で共生社会ホストタウン未登録の自治体)
- ② 共生社会ホストタウン  
(令和2年1月1日時点で共生社会ホストタウンに登録されている自治体)
- ③ 復興ありがとうホストタウン
- ④ 未登録・地域(令和2年1月1日時点)の解消及び国内でのホストタウン登録が薄い地域における登録の促進

### (2) 事業スキーム



※委託事業者により各対象経費を支払うことから、請求書の宛先は委託事業者となる。

### (3) 調査対象プロジェクトに係る経費等

調査対象プロジェクト1つ当たりの経費の上限は、調査対象プロジェクトに参加するフィールド自治体1つ当たり上限1,000万円を上限として、おおむね140件を選定予定。

### 3. 取組内容等

<b>(1)フィールド自治体の区分</b>						
未登録国・地域の解消及び国内でのホストタウン登録が薄い地域における登録の促進						
<b>(2)目的</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>●札幌市開催となった競歩競技のグアテマラ共和国競歩選手のホストタウンとなることで、恵庭市民の異文化理解や国際意識を高め、東京オリパラ開催の機運の醸成と浸透を図る。</li> <li>●ホストタウンをきっかけにグアテマラ共和国の歴史・文化・社会等への理解を深め、東京オリパラ後、道内在住のグアテマラ共和国関係者との交流を通じ、恵庭市のSDG'sへの取組の一助としていく。</li> </ul>						
<b>(3)モデルプロジェクトの具体的内容・スケジュール</b>						
<b>①グアテマラ NOC 関係者の事前現地視察等の招聘</b>						
●ホストタウンを希望するグアテマラ共和国 NOC 関係者の事前現地視察を招聘し、ホストタウンを目指す。						
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
事前調整 →	視察実施 ☆	事業の効果とりまとめ、精算 →				
<b>②グアテマラ&amp;SDG's セミナー</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>●駐日グアテマラ共和国大使館や在札グアテマラ共和国名誉領事と連携予定。</li> <li>●グアテマラの文化・歴史・料理紹介、さらにコーヒーとフェアトレードなどについて理解を深める講座やセミナー等を開催。</li> <li>●講師はグアテマラ共和国大使館員、道内グアテマラ出身者、JICA 青年海外協力隊 OB 等に依頼。</li> </ul>						
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
事業内容等の検討・調整 →		イベント実施 ☆	事業の効果とりまとめ、精算 →			
<b>③スペイン語入門講座</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>●スペイン語講師によるスペイン語入門講座。</li> <li>●交流のきっかけとなる簡単な挨拶、自己紹介を学ぶ。</li> <li>●応援する際のスペイン語を学び、大会当日競技中の応援をスペイン語でする。</li> </ul>						
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
事業内容、委託先の検討・調整 →				講座実施 ☆	事業の効果とりまとめ、精算 →	

④競歩競技関係者によるウォーキング講座

- 日本の競歩競技関係者によるスポーツ教室などを開催。

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
		事業内容、委託先の検討・調整				イベント実施		
						☆	事業の効果とりまとめ、精算	

⑤事前合宿の受入れ

- 7/6～7/24 の札幌の選手村開村前までの期間の受入れ。
- 恵庭市内ホテルに宿泊予定。
- 市内及び近隣市の練習場やトレーニング施設等を活用していただく。

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
		事業調整				
				←---事前合宿受入れ---		事業の効果とりまとめ、精算

⑥事前合宿中の息抜きおもてなし&激励会

- 事前合宿期間中に、選手の負担にならない程度に恵庭市内外近郊の観光&食事会をし、息抜き&大会に向けての激励会をする。

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
		事前調整				
				イベント実施		事業の効果とりまとめ、精算
				☆		

⑦広報及び応援活動 ※一部必須事業

- グアテマラ応援グッズやチラシ等を作成し、地方紙や地域 FM、さらに市内イベント等を活用し、市民はもとより近隣市町村へ広くホストタウンの取組について周知。
- 競技当日、応援バスツアーを企画し、グアテマラ選手の沿道応援をする。

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	事業内容、委託先の検討・調整						
			←---広報活動の実施---				事業の効果とりまとめ、精算
					応援イベント実施		
					☆		

⑧ホストタウン・ハウスへのブース出展 ※必須事業

- 大会期間中に東京ウォータフロントシティ(有明)に設置されるホストタウン・ハウスにブース出展し、ホストタウンの取組みを周知する。

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
		事業内容、委託先の検討・調整				ブース出展		
						☆	事業の効果とりまとめ、精算	

⑨ただいま・おかえり交流

- 競技後の8月8日に、選手を迎え、日本の文化体験や食事会を開催し市民と交流。

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
		事業内容の検討・調整				イベント実施	
					☆	事業の効果とりまとめ、精算	

(4)期待される効果

《期待される成果》

- グアテマラ共和国のホストタウンをきっかけに、道内に在住するグアテマラ共和国関係者とのつながりが深くなることが期待される。
- リオ+20(国連持続可能な開発会議)の準備会合で、コロンビアとグアテマラが中心となって提案し、全世界的な取組へと発展した持続可能な開発目標「SDG's」について、グアテマラのホストタウンになることで、市民のSDG'sへの関心を高めることが期待される。

《機運醸成》

- グアテマラ共和国の文化・歴史・社会等について学ぶあるいは体験する機会を創出し、市民のグアテマラや中米への関心を高める。
- 競技中での沿道応援が可能な種目のホストタウンとなることで、テレビ中継などでは味わえない臨場感を楽しめるという機会を活用し、市民の競歩競技及び東京オリパラへの関心を高める。
- 競歩競技関係者による講演あるいはスポーツ教室等により、ウォーキングなどの健康づくりへの関心を高める。

《レガシーへ》

- グアテマラ共和国のホストタウンをきっかけに、道内在住のグアテマラ出身者や JICA 青年海外協力隊 OB 等グアテマラ関係者との交流を推進する。
- グアテマラ関係者との交流を通して、グアテマラや中米への理解を深め、世界的視野にたった SDG's の取組みへと繋げていく。

### 3. グアテマラ共和国について



国旗は、空の色を表す青、清潔・高潔を表す白を基調とした2色旗で、中央に国鳥ケツアル鳥を施した国章が配されています。

#### ■ 基本情報

- ①人口 約1,691万人（2017世銀）
- ②面積 108,889平方キロメートル（北海道と四国を合わせて広さよりやや大きい）
- ③首都 グアテマラシティ
- ④国花 モンハ・ブランカ（ランの1種）
- ⑤通貨 ケツアル
- ⑥言語 スペイン語（公用語）、その他に22のマヤ系言語他あり
- ⑦宗教 カトリック、プロテスタント等（信教の自由を憲法上保障）
- ⑧主要産業 農業（コーヒー、バナナ、砂糖、カルダモン）、繊維産業
- ⑨国を代表する祝日 独立記念日（9月15日）  
※1821年、スペイン支配からの独立を宣言した日付



#### 【内政】

国会や司法の機能不全もあり、厳しい国内情勢が続いている。2019年6月16日に大統領選を実施したが、当選に必要な票の過半数を獲得した候補者がいなかったため、同年8月11日に決選投票を実施。アレハンドロ・ジャマティ次期大統領が選出され、2020年1月14日に就任式が挙行された。

#### マヤ世界の中心

ティカル遺跡をはじめ、マヤ文明の建築物が集中して存在しており、時代の流れを観察できます。また、人口の半分近くがマヤ系先住民であることも理由の一つといわれます。

マヤ文明最大級の遺産・ティカル国立公園

